

燦々便り 124

テニスと私(1)

私がテニスを始めたのは 中学1年生の時、部活でのスタートでした。
入学してすぐ、どこに入部するか決めるように言われ、体験入部を経て、テニス部に入ったわけですね。なぜテニスだったかと言うとその時教室は3階にあり、そこからちょうど真下にテニスコートが2面、とても綺麗に輝いて見えたからかもしれません。

今から考えますと、変な学校でした。テニスコートのすぐ横の学校の敷地内と思えるような場所に住んでいるおじさんが、いつもコート整備をされていて、だから綺麗だったのです。

しかもそのおじさんはこのコートで、テニスクラブの世話もしていたのです。

あくまで学校優先でしたから、私達も自然に受け入れていました。

先生は殆ど関わる事なく、そのおじさんの世話に自然となっていました。

他にも変な事がありました。いつもいつも必ず校庭のどこかにいて、1日中校庭のすべての草木の手入れをしている先生がいたのです。そんなですから先生と知るには時間がかかりました。校庭の手入れに忙しく、授業はとても少なかったのではないのでしょうか。私は6年間の在学中1年だけ習いました。

たった一人で、広い校庭をいつも美しく保っておられました。日焼けして、いつも作業着で、草刈機なんてない時代でしたから年に1回か2回草むしりに全校生徒駆り出されます。

黒柳徹子さんのトットちゃんを読んだ時、学校の雰囲気が似ているような気がしました。

余談ですが、この学校の院長先生(女学院ですから)のあだ名は大風呂敷でした。

校風と言えば、自由をモットーとしていましたから、部活も入っても入らなくても誰も気にしない。コートのおじさんも、庭の手入れをしている先生も、やりたい事をただやっている。

学校も形式的に部活を応援しているだけかもしれません。でも頑張っている部もありました。

みんな、好きにしたら!!って感じです。

中学1年生といっても本当に子供でした。

何の疑問も持っていなかったのですから

そんな雰囲気が合っていたのでしょうか、私の部活が始まります。次回お楽しみに！

能勢杯

皆さんのおかげで、今年もスタートします。

いつまで出来るか、ギリギリまで考えました。

能勢杯の出会いを喜んでいただいている人がいる限り、出来るまで、していきます。

ローカルテニスの楽しみ、伝えていければ幸いです。

新しく参加しようとおもっている方、募集しています。

遅くなりましたが、今年もよろしくお願いします

